

琉球大学学術リポジトリ

琉球列島の宮古島より採集されたクボミカルイシガニ (新称) (十脚目: 短尾下目: ヒシガニ科)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学資料館 (風樹館) 公開日: 2018-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 前之園, 唯史, Maenosono, Tadafumi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/38743



琉球列島の宮古島より採集されたクボミカルイシガニ (新称) (十脚目: 短尾下目: ヒシガニ科)

前之園唯史

〒901-2111 沖縄県浦添市経塚 1-4-5 102 株式会社かんきょう社
(maenosono@kankyo-sha.co.jp)

要旨. 琉球列島の宮古島から採集された標本に基づき、クボミカルイシガニ (新称) *Niobafia erosa* (Miers, 1879) を報告した。さらに文献調査の結果、八重山諸島の黒島からアバタヒシガニ *Pseudolambrus calappoides* と報告された種は、実際にはクボミカルイシガニであることも判明した。

はじめに

Lambrus (Parthenopoides) erosus Miers, 1879 は、Eastern Seas から採集された標本に基づいて記載されたヒシガニ科の種である (Miers 1879)。その後、アフリカ大陸の東岸から中部太平洋までの複数の地域から採集されているが、採集例は少なく、各報告において扱われている標本数も少ない稀な種である (Tan & Ng 2007)。本種はその特徴的な形態から数回にわたり属が変更されたが、近年 Tan & Ng (2007) によりカルイシガニ亜科に置かれ、本種をタイプ種とした単型の属 *Niobafia* Tan & Ng, 2007 が創設された。近年、著者は琉球列島におけるサンゴ礁海岸の甲殻類調査を行っているが、その過程で宮古島から本種が採集されたので、採集標本の形態的特徴について記述する。

本研究で検討した標本は、琉球大学資料館風樹館 (RUMF: Ryukyu University Museum, Fujukan) に収蔵されている。標本の大きさは甲長 × 甲幅で示した。

結果と考察

Parthenopidae MacLeay, 1838 ヒシガニ科

Daldorfiinae Ng & Rodríguez, 1986

カルイシガニ亜科

Niobafia Tan & Ng, 2007

クボミカルイシガニ属 (新称)

Niobafia erosa (Miers, 1879)

クボミカルイシガニ (新称)

(図 1, 2)

検討標本. RUMF-ZC-3772, 1 雌 (10.7 × 12.8 mm), 宮古島東平安名崎, 2016 年 3 月 8 日, 前之園唯史採集。

形態的特徴. 甲の外観は、幅広い五角形に近い (甲幅/甲長 = 1.20)。背面は大小の窪みで覆われ、それらは概ね左右対称に配置される。額域の中央、鰓域と胃域の境界、鰓域・腸域と心域の境界の各窪みは深く、幅広い溝となる。額域は鈍く突出する。甲の前側縁には背面から腹面へ貫通する穴がある。第 2 触角柄部の第 2 節は、第 1 触角柄部の第 1 節より大きく、幅広いレの字形である (図 2)。鉗脚は左右でほぼ同大・同形である。鉗部の下縁は、幅広い緩やかな波状形である。不動指の基部は、可動指の基部の 2 倍以上幅広い。歩脚の長節前縁には、T 字形の瘤状顆粒が並び、それらは先端で隣の顆粒と接する。指節には尖った顆粒が密に並ぶ。尾節は縦長の三角形で側縁は僅かに凹む。

標準和名. *Niobafia erosa* は、甲の中央部が深く窪んでいることから、本種の標準和名に「クボミカルイシガニ」、本種が属する *Niobafia* の標準和名に「クボミカルイシガニ属」を提唱する。なお、種の標準和名の基準となる標本には、本研究の検討標本 RUMF-ZC-3772 を指定する。

採集環境. 検討標本は礁原にある死サンゴ塊の隙間より採集された。

備考. 検討標本の形態的特徴は、先行研究で示されている *Niobafia erosa* (Miers, 1879) の記載や図によく一致した (Miers 1879; Rathbun 1911; Bouvier 1915; Peyrot-Clausade & Serène 1976; Chen & Xu 1991; Tan & Ng 2007)。

本種は、アフリカ大陸の東岸から中部太平洋まで広く分布する (Tan & Ng 2007)。永井・野村 (1988: 135) は、八重山諸島黒島産のアバタヒシガニ *Pseudolambrus calappoides* (Adams & White, 1849) の写真を掲載しているが、甲の窪みの形状や配置、さらに鉗脚の可動指に対する不動指の太さが、先行研究で示されているアバタヒシガニのそれとは異なり [例えば, Sakai 1976: text-fig. 153; 三宅 1983: pl. 18 (2); Dai &

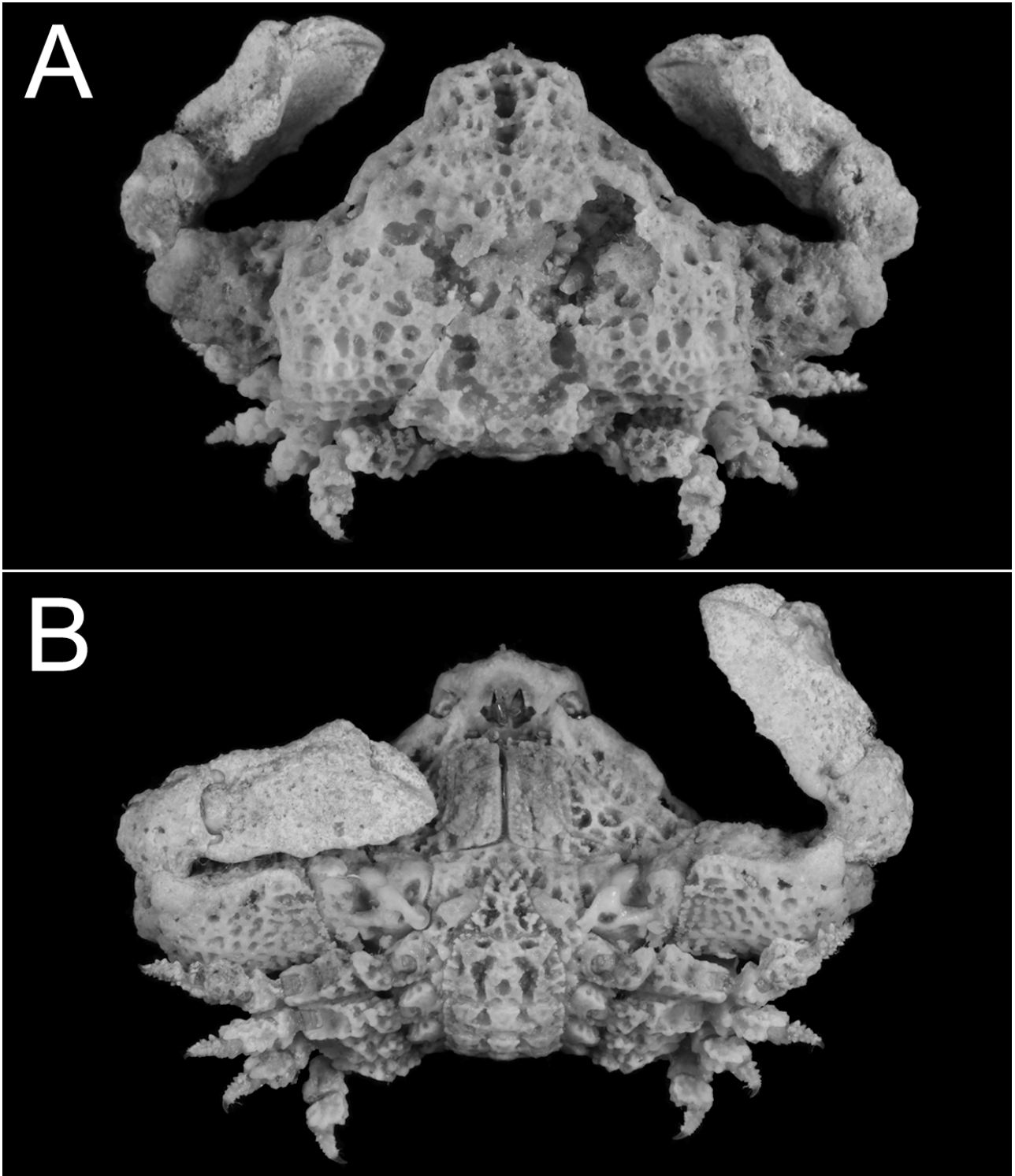


図1. クボミカルイシガニ (新称), RUMF-ZC-3772 (雌, 10.7 × 12.8 mm). A, 全体, 背面 (甲の一部は破損); B, 全体, 腹面.

Fig. 1. *Niobafia erosa* (Miers, 1879), RUMF-ZC-3772 (female, 10.7 × 12.8 mm). A, entire animal, dorsal view (carapace partially damaged); B, same, ventral view.

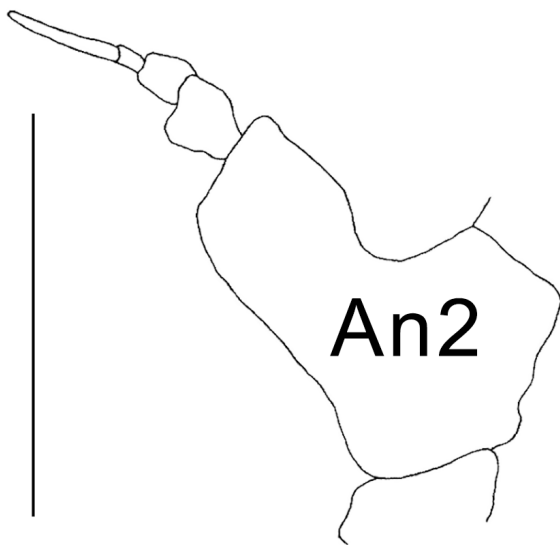


図2. クボミカルイシガニ (新称), RUMF-ZC-3772 (雌, 10.7 × 12.8 mm). 右の第2触角柄部第2節 (= An2), 顆粒は省略, 鞭状部は簡略化. スケール = 1 mm.
Fig. 2. *Niobafia erosa* (Miers, 1879), RUMF-ZC-3772 (female, 10.7 × 12.8 mm). Second segment of right antennal peduncle (= An2), granules not drawn, flagellum simplified. Scale bar = 1 mm.

Yang 1991: pl. 21 (3)], むしろクボミカルイシガニとよく一致する。したがって、永井・野村 (1988) の“黒島産アバタヒシガニ”は、クボミカルイシガニの誤同定であると判断される。

謝辞

琉球大学熱帯生物圏研究センターの成瀬貫氏には、文献の入手や標本の収蔵に関してご協力いただいた。株式会社南西環境研究所の石田憲氏には、採集調査の際に便宜を図っていただいた。ここに記して厚くお礼申し上げます。

引用文献

- Bouvier, E.L., 1915. Décapodes marcheurs (Reptantia) et Stomatopodes recueillis à l'île Maurice par M. Paul Carié. Bulletin scientifique de la France et de la Belgique, série VII, 48: 178–318, pls. IV–VII.
- Chen, H.-L. & Z.-X. Xu, 1991. Studies on the crabs of the Nansha Islands, China. In: Contribution on Marine Biological Research of the Nansha Islands and neighbouring waters 3. Pp. 48–106, China Ocean Press, Beijing.
- Dai, A.-Y. & S.-L. Yang, 1991. Crabs of the China Seas. China Ocean Press, Beijing.
- Miers, E.J., 1879. Descriptions of new or little-known species of maioid Crustacea

(Oxyrhyncha) in the collection of the British Museum. The Annals and Magazine of Natural History (5th series), 4: 1–28, pls. IV–V.

- 三宅貞祥, 1983. 原色日本大型甲殻類図鑑 II. 保育社, 大阪.
- 永井誠二・野村恵一, 1988. 新星図書シリーズ 沖縄海中生物図鑑 7. 新星図書出版, 浦添.
- Peyrot-Clausade, M. & R. Serène, 1976. Observations sur quelques espèces de Brachyours (Crustacés Décapodes) de Madagascar. Bulletin du Muséum national d'Histoire naturelle, 3e série, 293(416): 1339–1371.
- Rathbun, M.J., 1911. No. XI. Marine Brachyura. In: The Percy Sladen Trust Expedition to the Indian Ocean in 1905, Under the leadership of Mr. J. Stanley Gardiner. Volume III. The Transactions of the Linnean Society of London, 2nd Series, Zoology, 14(2): 191–261, pls. 15–20.
- Sakai, T., 1976. Crabs of Japan and the Adjacent Seas. (In 3 volumes: 1. English text; 2. Plates volume; 3. Japanese text). Kodansha, Tokyo.
- Tan, S.H. & P.K.L. Ng, 2007. Review of the subfamily Daldorfiinae Ng & Rodriguez, 1986 (Crustacea: Decapoda: Brachyura: Parthenopidae). In: S.H. Tan & P.K.L. Ng (eds.), Crustacean Supplement I. The Raffles Bulletin of Zoology, Supplement, 16: 121–167.

Niobafia erosa (Miers, 1879) (Decapoda: Brachyura: Parthenopidae) from Miyako-jima Island, Ryukyu Archipelago, Japan

Tadafumi Maenosono

Kankyosha, 1-4-5 102 Kyozyuka, Urasoe, Okinawa 901-2111, Japan (maenosono@kankyo-sha.co.jp)

Abstract. A rare daldorfiine crab, *Niobafia erosa* (Miers, 1879) (Decapoda: Brachyura: Parthenopidae), is reported on the basis of a female specimen collected from Miyako-jima Island, Ryukyu Archipelago, Japan. Literature review indicates that the previous record of *Pseudolambrus calappoides* from Kuro-shima Island, Yaeyama Island Group, is actually of *N. erosa*.

投稿日: 2016年3月16日
受理日: 2016年5月26日
発行日: 2016年6月26日